

ホタテガイ養殖管理情報

稚貝の分散作業は23℃になってもすぐには行わず、
「フチがまわっている」ことを確かめてから始めましょう

1 海況

海況自動観測ブイの15m層の半旬別平均水温の推移は図1、10月5日時点の陸奥湾中層（10～20m層）の日平均水温は図3のとおりで、ほとんどの海域で23℃台の地点が出始めました。

平舘・青森・東湾ブイの15m層及び30m層の日平均水温が24℃、25℃、26℃を超えた日数は、今年が過去最多となっており（表1）、今夏は水温が高い状況が長期間続きました。

2 餌環境

ホタテガイの餌の目安となるクロロフィルa量（水深1～20m）は、9月時点では西湾と東湾ともに平年並みでした。詳しくは、ほたてナビ（下記URL、QRコード③）をご覧ください。

3 稚貝分散作業時の注意点

- 現在の水温は、稚貝が成長を再開する23℃に近くなっています。陸奥湾海況情報や海ナビ@あおもり（下記URL、QRコード①②）を参考に、自分の地区の水温の状況を確認してください。
- 今夏は高水温期間がかなり長かったため（表1）、稚貝は例年以上に疲弊している状態です。中層水温が23℃を下回った後に、長期間養生させてから分散作業を行うと、へい死率が低くなることが分っています（図2）。そのため、分散作業は23℃になってもすぐには行わず、施設を下層から餌の多い中層まで引き上げ、稚貝を養生させてください。
- 分散作業は、貝の体力回復の目安となる「フチがまわっている」ことを確かめてから行いましょう。
- 1段当たりの収容枚数が多いと成長悪化やへい死につながるので、養殖方法に応じた適正な収容枚数（1段当たり10～25枚）を心がけて作業してください。
- 稚貝は乾燥や衝撃に弱いので、取り扱いには丁寧に、作業は手早く行いましょう。
- 流れによるぶつかり合いで、外套膜（ヒモ）が傷ついてへい死しないように、ネットにはオモリをつけましょう。また、流れが速い場合は、作業を控えましょう。
- 作業終了後は波浪によるぶつかり合いを防ぐために、施設を浮かせずぎないようにしましょう。

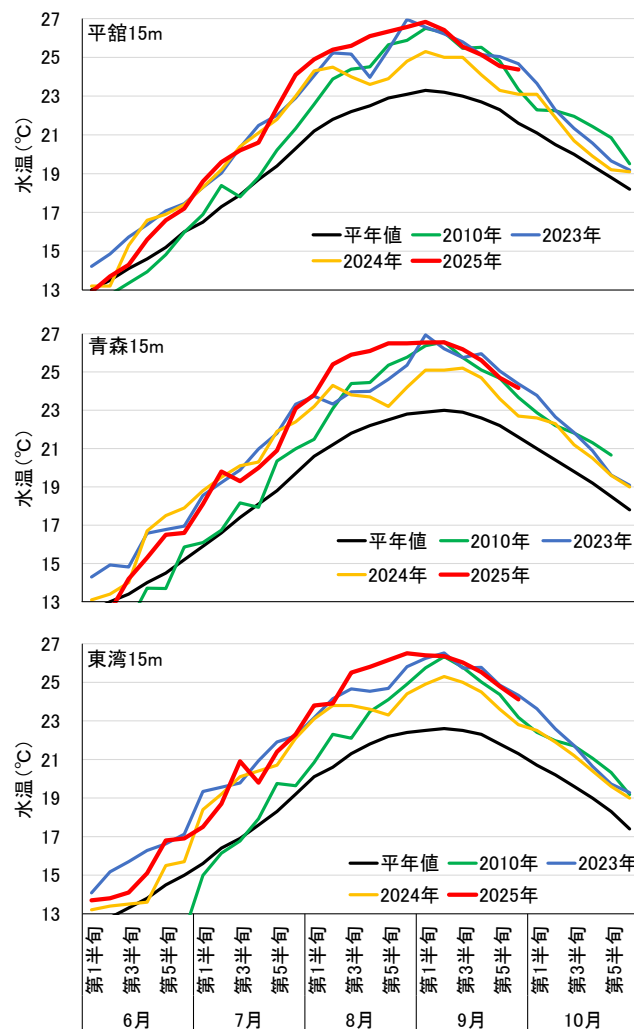


図1 海況自動観測ブイでの15m層の半旬別平均水温の推移 ※暫定値を含む

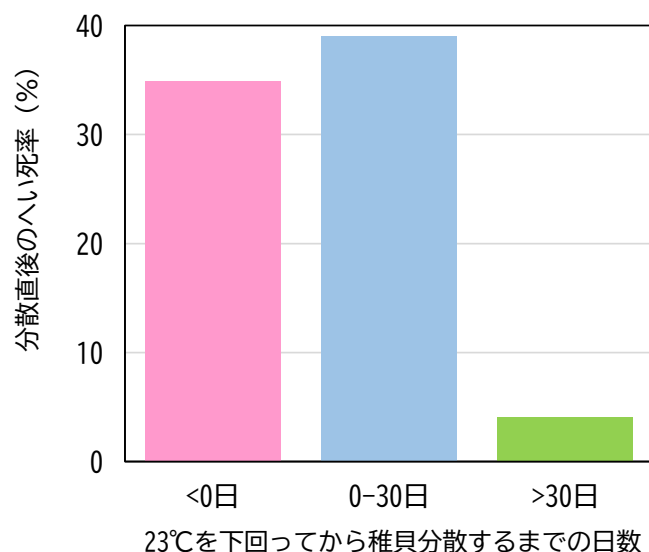


図2 R5年産稚貝の分散時期別分散直後のへい死率（夏季の下層水温が24℃以上が5週間継続した場合）



表1 各ブイの水温区分ごとの出現日数（欠測日を線形補正した推定日を含む、赤字はそれぞれの最大日数）

ブイ	水深	水温	2010	2012	2013	2023	2024	2025*
平館	15m層	23℃を超える	56	51	52	69	65	73
		24℃を超える	46	41	39	56	38	68
		25℃を超える	34	30	22	39	11	48
		26℃を超える	12	13	0	15	0	23
	30m層	23℃を超える	43	37	40	42	25	58
		24℃を超える	31	25	28	23	5	44
		25℃を超える	17	15	12	5	0	24
		26℃を超える	3	1	0	0	0	5
青森	15m層	23℃を超える	55	52	48	71	50	70
		24℃を超える	47	40	38	49	34	59
		25℃を超える	30	28	14	28	13	45
		26℃を超える	12	7	0	10	0	30
	30m層	23℃を超える	44	40	40	41	25	57
		24℃を超える	32	27	26	23	9	48
		25℃を超える	16	17	0	3	0	27
		26℃を超える	4	2	0	0	0	10
東湾	15m層	23℃を超える	42	38	44	66	52	67
		24℃を超える	35	28	32	53	29	54
		25℃を超える	21	21	9	30	12	43
		26℃を超える	6	0	0	10	0	26
	30m層	23℃を超える	22	27	38	25	5	49
		24℃を超える	14	19	19	4	0	40
		25℃を超える	1	5	0	0	0	23
		26℃を超える	0	0	0	0	0	10

*2025年は10/5、それ以外の年は1/1～12/31までの累積値

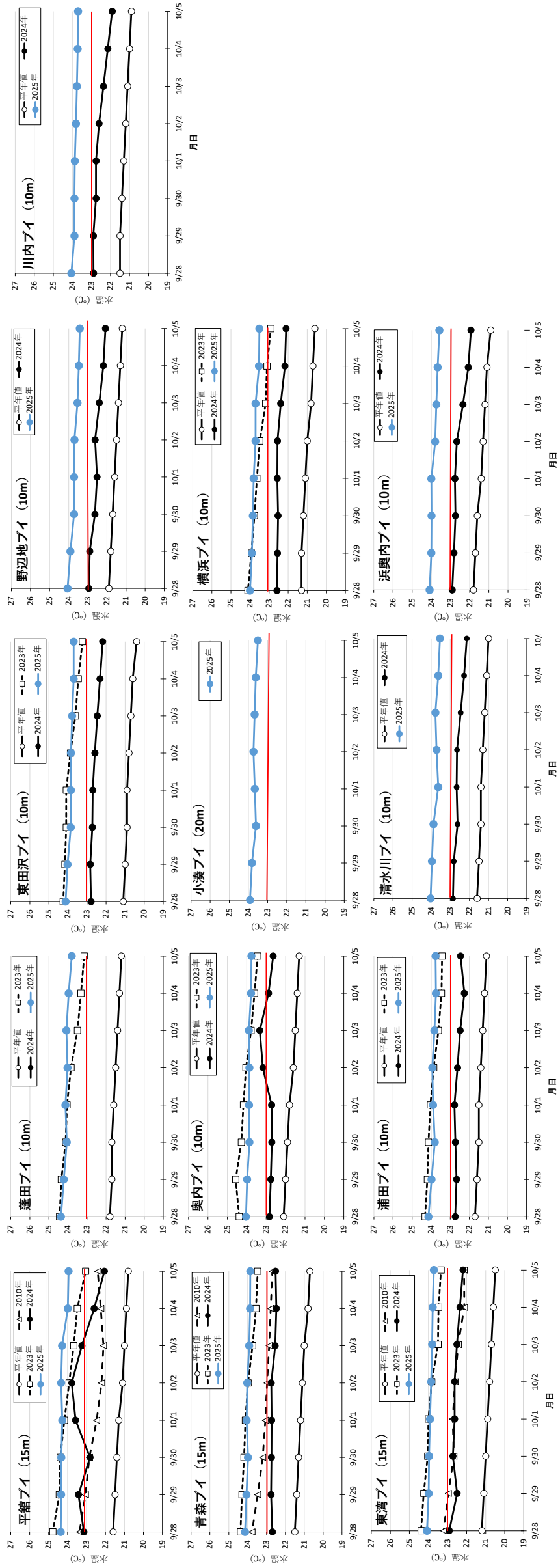


図3 海況自動観測ブイ・水温観測ブイでの中層(10～20m層)の日平均水温

(赤線はホタテガイ稚貝が成長を再開する水温23℃を示す)